

No	感染症(PT)	出典	概要
440	炭疽	ProMED-mail20070731.2459	米国North Dakota州Traillのウシ1頭が、同州で今年初めての炭疽陽性と確認された。同じ群れの動物は隔離され、ワクチン接種された。
441	炭疽	ProMED-mail20070808.2575	カナダManitobaのInterlakeにおいて、炭疽のアウトブレイクによりウシ49頭、ヤギ2頭、ウマ1頭が死亡した。ヤギ2頭、ウマ1頭は感染胞子の摂取により死亡した。
442	炭疽	ProMED-mail20070820.2717	キルギスタンでは近年ヒト炭疽症例が増加している。2006年は17例が登録されたが、2007年8月10日までに、既に12例が登録されている。2007年8月13日に入院したOsh州Uzgen地区の43歳男性はトキシックショック症候群を呈し、左前腕のカルブネル症と診断されたが、死亡した。予備的な検査結果は炭疽陽性であった。疫学的調査の結果、この患者は炭疽で死亡した疑いのあるウシの解体を行ったことが明らかとなった。肉を食べた人も入院となった。
443	炭疽	ProMED-mail20070823.2758	2007年8月22日現在、カナダManitobaのInterlakeにおいて炭疽陽性であった農場数は22である。これらのアウトブレイクの発生日は2007年7月11日～8月12日である。
444	炭疽	ProMED-mail20070828.2823	米国Montana北東部のSheridan Countyにおいて、先週(2007年8月20～24日)、ウシ計8頭が炭疽により死亡した。
445	炭疽	ProMED-mail20071001.3246	アルゼンチンで、トウモロコシの切り株のある場所で放牧されていた300頭のウシの群れに炭疽のアウトブレイクが発生した。干ばつ後の降雨の後に突然5頭が死亡した。この農場では5年前にも炭疽が流行した。
446	炭疽	ProMED-mail20071004.3287	アルゼンチンBuenos Aires州で炭疽のアウトブレイクが確認された。アウトブレイクが確認された農場はPartido de La Madridにあり、これまでに動物2頭が突然死亡した。この農場では2004年にも炭疽が発生した。
447	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なった調整液にヒトバルボウイルスB19を加え、60℃で10時間処理した。異なった溶液中のB19は加熱中異なった熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なった調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なった。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。
448	日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	2004年11月から2005年2月にかけて、日本の西部に位置する広島県の野生イノシシから血清25検体を採取した。日本脳炎ウイルス(JEV)に対する抗体検査を、IgMキャプチャー及びIgG酵素免疫測定法(ELISA)、並びにプラーク減少中和試験により行った。17検体(68%)がJEV中和抗体陽性だった。中和抗体陽性検体は全てIgG-ELISA陽性だった。1検体はIgMも陽性だった。約70%の野生イノシシが抗JEV抗体陽性であることが示され、この地域のJEV感染サイクルに関与している可能性が提示された。
449	日本脳炎	日本ウイルス学会第54回学術集会(2006年11月19-21日)	2005年に富山県内で捕集した蚊683プール(10061個体)および2005年に採取したブタ血清173検体からウイルスを分離した。蚊プールからはウエストナイルウイルスは検出されなかった。日本脳炎ウイルスは、豚舎付近と牛舎付近のコガタアカイエカ11プールと、ブタ血清2検体より分離され、いずれも型であった。富山県ではこれまでのところウエストナイルウイルスの侵入はなく、また、現在もコガタアカイエカ(媒介者)とブタ(増幅動物)の関係が保たれていることが示唆された。
450	梅毒	CCDR 2007; 33(6): 61-67	カナダAlberta州Edmontonでは2003年に感染性梅毒が大幅に増加し、27例が報告された。2004年は52例、2005年は106例、2006年の1～3月は36例と症例数が増加している。四半期毎に解析したところ、疫学曲線は2003年中および2004年上半期に小規模の初期アウトブレイクが認められ、2004年の第3四半期初頭からは症例数の大幅な増加を伴う第2期アウトブレイクが今日まで継続中である。土着民女性の感染率は白人女性より20倍以上高かった。2005年には先天性梅毒の新生児5例が出生した。